

金融危機の大きさ

金融危機も財政危機も問題はその大きさにある。銀行の不良資産と預金流出額の大きさ、中央銀行や政府が必要とする救済額とその一国経済に対する大きさ、といった問題である。

スペインの場合、最大の不良資産は残高6500億ユーロの住宅ローンである。住宅価格は2007年のピークから昨年末までに22%低下したが、簿価は2%しか縮小していない。英ファイナンスタイムズ紙によると、同じようなバブルに見舞われたアイルランドの場合、ピークから欧州連合(EU)による救済を受けた10年11月にかけて住宅価格は36%値下がりし、ローンの簿価は20%縮小した。救済後も価格はさらに21%(合計で50%)、簿価は20%(同36%)縮小している。

これまで、スペインの銀行は差し押さえた住宅を市場に放出せず、価格の下落を顕在化させないできた。アイルランドの例からすると、どう控えめにみても簿価の25%以上、金額で1600億ユーロの損失は避けられそうにない。加えて、保有するスペイン国債の値下がり、商業不動産、消費者ローン、南米などへの対外貸し付けの焦げ付きを合わせると、損失は2000億ユーロを優に超えてくる。

一方で、預金の流出が加速している。国内の家計や企業からの流出はこの1年だけで1000億ユーロを超え、外銀からの借り入れも減少が続いている。欧州サミットで議論された1000億ユーロの資本注入では到底足りないことは間違いない。

これまでの資金不足を補填するための3000億ユーロを超える融資やスペイン国債の買い上げで、欧州中央銀行(ECB)の負担は一段と大きくなっている。さらにイタリアやギリシャを含めると、ECBのバランスシートの劣化が急激に進んでいる。これに財政危機への対応が加わることを考えると、抜本的な解決策は、現状の仕組みのなかでは期待できそうにもない。

(2012.7.6 十字路)